

❀ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ❀

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 福岡市小学校図書館教育研究委員会の授業の紹介をします

10月16日（月）は東区の和白東小学校で、23日（月）は早良区の有田小学校で、図書館を使つての授業がありました。

和白東小学校では、4年生の総合的な学習時間で、単元名「バリアフリーやユニバーサルデザインについて考えよう」という授業でした。

今日の授業までに、学校司書によるブックトーク、そして、アイマスク体験や車いす体験をしていました。さらに、視覚障がい者や肢体不自由の方からは、日常生活で困っていることを聞いていました。そこから調べたい課題ごとにグループを作り、困っていることをまとめていました。

今日の授業のめあては、「障がいのある方をふくめた様々な人が楽しく快適にくらすためのバリアフリーやユニバーサルデザインには、どんなものがあるのか本を使って調べよう。」でした。

まず、子どもたちは、小学校の校区にある中学校や学校図書館支援センターなどから借りている福祉関係の本が何冊も入った青いかごの中から、書名や表紙を見て本を選んでいました。

次に、本を決めると、本の目次や索引、見出しから自分が調べたい情報を見つけ、一生懸命カードに書いていました。

最後に、今日の学習で分かったことを発表していました。

4年生の子どもたちが、本から必要な情報を見つけ、カードにまとめていく姿から、先生のこれまでの指導の成果がよくわかる授業でした。また、本を借りて授業の準備している先生方の熱意に頭が下がりました。



（先生の説明を熱心に聞く子ども）



（授業の記録を取る先生）



（青いかごから本をさがす）



（索引を使って調べる）



（本を熱心に読む子ども）



□ 総合図書館に学習に来ました

10月18日(水)・19日(木)に愛宕小学校の3年生が、総合図書館に学習に来ました。

図書館では、最初に学校図書館支援センターの司書から総合図書館の施設や蔵書数などの説明を聞きました。そして、読み聞かせや紙芝居を読んでもらい、実演をする時に気を付けることを教えてもらっていました。その後、1階のこども図書館や読み聞かせの部屋などを見学しました。最後に、1年生に読み聞かせをする本を選びました。

図書館の蔵書数や読み聞かせの仕方など初めて知ったことがあったり、1年生に読み聞かせをする本を自分たちで選んだりして、とても楽しそうでした。きっと、1年生への読み聞かせも、上手にできるだろうと思いました。



(総合図書館の説明を聞く)



(紙芝居を見る)



(1階のこども図書館の見学)

Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

《鶴田小学校》

鶴田小学校は、16学級、450名の学校です。図書館の前の廊下や壁、図書館内の壁や書架が、白っぽい色のため、とても明るい図書館です。

○ 図書館前の廊下の工夫

廊下の端から図書館の表示がはっきり見え、図書館の存在が良く分かるようにしています。



(図書館前の明るい廊下)



(小枝と板で作った図書館の表示)



(本の展示)



(教科書に載っている作者の顔写真と物語の紹介)

○ 書架などの配置の工夫

中央に丸いテーブルを配置し、その周りに閲覧用机とソファを置いています。奥には、観葉植物を置き、ゆったりした空間をつくっています。



（同じ高さで白っぽい色の書架を配置）



（観葉植物のまわりには絵本を配架）



（ここに絵本コーナーがあります。）



（この絵本コーナーでは、まわりに絵本を配架し、椅子だけでなく、青いカーペットを敷いて、床に座っても、本を読めるようにしています。）

（丸いテーブルには、テーブルクロスを敷き、本を立てているので本がめだちます。）

○ 本に興味を持たせる工夫

図書委員や子どもたちが書いたPOPを使って本の紹介をしています。



（図書委員がおすすめの本のPOPを書いたファイル）



（廊下の掲示板に貼っているPOP）



（前面や側面の壁には、「そらめくんのベッド」「ぐりとぐら」などの絵本の絵が掲示してあります。）

○ 書架の表示の工夫

書架の表示の色が、図書館の明るい雰囲気と、とてもよく調和しています。



（文字を白色で統一し、下地の色を変えています。）（文字が大きく、どこに、どんな本があるかよくわかります。）

♪ 福岡アジア美術館 「12月の案内」



* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

10日(日), 12日(火), 24日(日),

・時 間: 11:30~12:00 13:00~13:30

・場 所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

♪ 福岡市総合図書館「12月の案内」



* 毎月のお話し会

2日(土), 3日(日), 9日(土), 10日(日), 16日(土)

23日(土), 24日(日)

・時 間: 土曜: 14:30~(幼児向け)

日曜: 14:30~(幼児向け), 15:15~(小学生向け)

・場 所: 「こども図書館 おはなしの家」

* クリスマス特別お話し会

・日 時: 17日(日) 14:00~15:10(幼児~小学生)

・場 所: 第1会議室(3階), 第2会議室(3階)

♪ 福岡市子ども読書フォーラム

おはなし会や読み聞かせ, ペープサートだけでなく, 読書グッズ作り(しおりやブックカバーなど)やPOPなどの掲示があります。また, 福岡市教育委員会キャラクターのスタンバードも来場予定です。

・日 時: 平成29年12月2日(土) 11:00~16:00

・場 所: 福岡市男女共同参画推進センター「アミカス」

(福岡市南区高宮3-3-1 西鉄天神大牟田線「高宮駅」西口すぐ)

※「福岡市子ども読書フォーラム」は, 子どもが本に親しみ, 自ら進んで読書できるような環境づくりを推進する一環として, 平成17年度から毎年実施されています。

※「ペープサート」とは, 話の登場人物などを紙で作し, それを割りばし状の棒につけ, 話の展開に合わせて動かす紙人形劇です。

《昨年度の様子》

○ 展示



(POPを作成した小学生)

○ 紙芝居



(紙芝居をする中学生)

○ しおりづくり



(しおりづくりを教える高校生)

○ 読み聞かせ



(読み聞かせをするお父さん)

12月生まれの文学者たち



福永 令三(ふくながれいぞう)と「クレヨン王国」

1928年12月25日 愛知県名古屋市生まれ 2012年11月没

福永令三氏は、早稲田大学文学部国文科を卒業しました。福永氏は、小学校の入学前から新聞の連載小説(漢字にルビがふってあった)を読むのが好きだったため、朝、4時に起きて新聞を読んでいました。そして、新聞を読み終わると、自転車に乗り、朝食ができる2時間ほどの時間、昆虫などを探したりして、まわりの自然に触れて過ごしました。

そのうち、自分も小説を書きみんなに読んでもらいたいと思うようになり、小学生の時には、自分で雑誌を作りました。その後も、福永氏は小説を書き続け、大学卒業後は小説をどんどん書いていました。しかし、お金がなく、生活に行き詰っていました。そんな時に、1963年、モービル児童文学賞の懸賞金が70万円(当時一年間は何とか暮らせるような金額)だったことや福永氏が尊敬する川端康成氏が審査委員長だったことから、「十二色のクレヨン」を書き、応募し、受賞しました。その後も、他の児童文学賞を受賞し続けたことから、童話を書くようになりました。

クレヨン王国シリーズで、自然の生き物が非常に生き生きと描かれているのは、小さいとき昆虫採集や植物採集がとっても好きだったことが影響しています。また、このシリーズは、1980年以来、講談社青い鳥文庫で毎年数冊ずつ刊行されています。現在47巻、累積発行部数500万部の人気シリーズで、新装版として出版されています。1997年には、「夢のクレヨン王国」として、テレビアニメ化されたり、講談社のコミック「なかよし」誌で漫画化されたりしました。



大石 真(おおishiまこと)と「チョコレート戦争」

1925年12月8日 埼玉県足立郡白子村(現和光市)生まれ 1990年9月没

大石真氏は、早稲田大学理学部に入学しましたが、編入して英文科に入り卒業しました。大学在学中から執筆活動を始め、卒業後も、出版社に勤めながら執筆活動続けました。

1965年発行の「チョコレート戦争」は、大人から無実の罪に問われた子どもたちが、推理したり調査したりしてえん罪を晴らす話です。この話では小学校の新聞部が活躍します。大石氏は、小学校の新聞部がジャーナリストと同じように調査し報道する活動を作品に取り入れます。また、それまで児童文学は推理小説の分野を扱わなかったのですが、推理小説のように推理して話を進めます。そこで、「チョコレート戦争」は子ども向け文学の転換点となったという人もいます。

1982年には、「チョコレート戦争」がテレビドラマ化されました。大石氏は、長編・短編、年少向き、年長向きを問わず、常に子ども自身やその周辺から生じる問題を題材として、興味深く読めるような作品を書いています。

大石氏の作品は、実写映画化された「教室二〇五号」、「たたかいの人田中正造」、「見えなくなったクロ」などがあります。

□ 図 書 館 員 の ひ み つ の 本 棚 《 No.139 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる
楽しみなコーナーです。

今回の本は、1972年の発行から現在も読み続けられている子ども向けの科学絵本
です。にわとりがたまごからひよこになり、そして、親鳥になる過程を、小さい子ど
もでも理解できるように、絵と短い文章で説明しています。卵の中のひよこが、次第に
成長していく様子に、子どもたちは興味を持って絵本に入り込むと思います。ぜひ、子
どもに読んであげたい一冊です。

※ 今月の本

『たまごとひよこ』

ミリセント・E・セルサム／著 竹山 博／画 松田 道郎／訳
福音館書店 1972年 1188円

♪ あとがき * * * * *

11月は、別名「霜月」と言います。霜が降りるため、「霜降り月」と名付けられたものが変化
したとされます。

さて、10月は、学校図書館を使った授業を参観することができました。授業で図書館を活用す
ることで、図書館には本を読むだけでなく学習センターとして調べ学習に活用できる本がいろいろ
あることを学ぶということでも大変意義があったと思います。

11月は学校公開週間があります。保護者や地域の方に、学校での読書活動を知ってもらい
よい機会だと思います。学校訪問では、図書館の中だけでなく、廊下の掲示板にも本のカバーを掲示し
たり、POPを使って本の紹介をしたりして、学校で読書活動をしっかり推進されていることがよ
くわかりました。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発 行：	福岡市教育委員会	生涯学習課
電 話：	711-4655	FAX： 733-5538

図書館員のひみつの本棚 第139回

先月に続いて「たまご」が題名に入っていますが、今回は科学の本です。

『たまごとひよこ』

ミリセント・E・セルサム／著 竹山 博／画 松田 道郎／訳
福音館書店 1972年 1188円

＜お勧め年齢＞

- ・乳幼児☆☆
- ・低学年☆☆☆
- ・中学年☆
- ・高学年—— 中学生——
- ・高校——
- ・一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

＜本の紹介＞

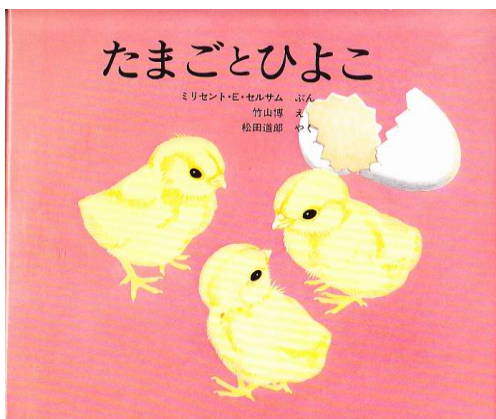
受精卵の仕組みを鶏の卵で説明した本です。はじめの方に「どうぶつはたまごから成長します。」と書いてあるため、読んでいる子どもは、鶏の卵の仕組みを知りながら、その事を人間や他の動物にも当てはめて考えていくことができます。

単純でありながら、詳細に描かれたカラーのイラストと、簡潔で適切な文章は、幼い子どもにもわかりやすく生命の不思議を伝えてくれます。

＜子どもに手渡す時のポイント＞

文章が簡潔に選ばれた言葉で書いてあるので、あまり言葉を足さずにそのまま読んであげた方が子どもに伝わるように思います。子どもがこの分野に興味を持った時に読んであげることができれば、小さい子でも十分に理解できるようです。

先日、4歳の息子が自分の体に興味を示したことから、この絵本と一緒に読んだのですが、「胚」や「精子」など少し難しい単語もイラストや文脈から彼なりに理解し、なにより生命の不思議に驚いた様子でした。本を読み終わった後、息子がお腹にいた時のエコー写真を出してきて、本と比べながら見ると、同じように点から始まっているところなど分かり、本の内容を実感できたようです。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか